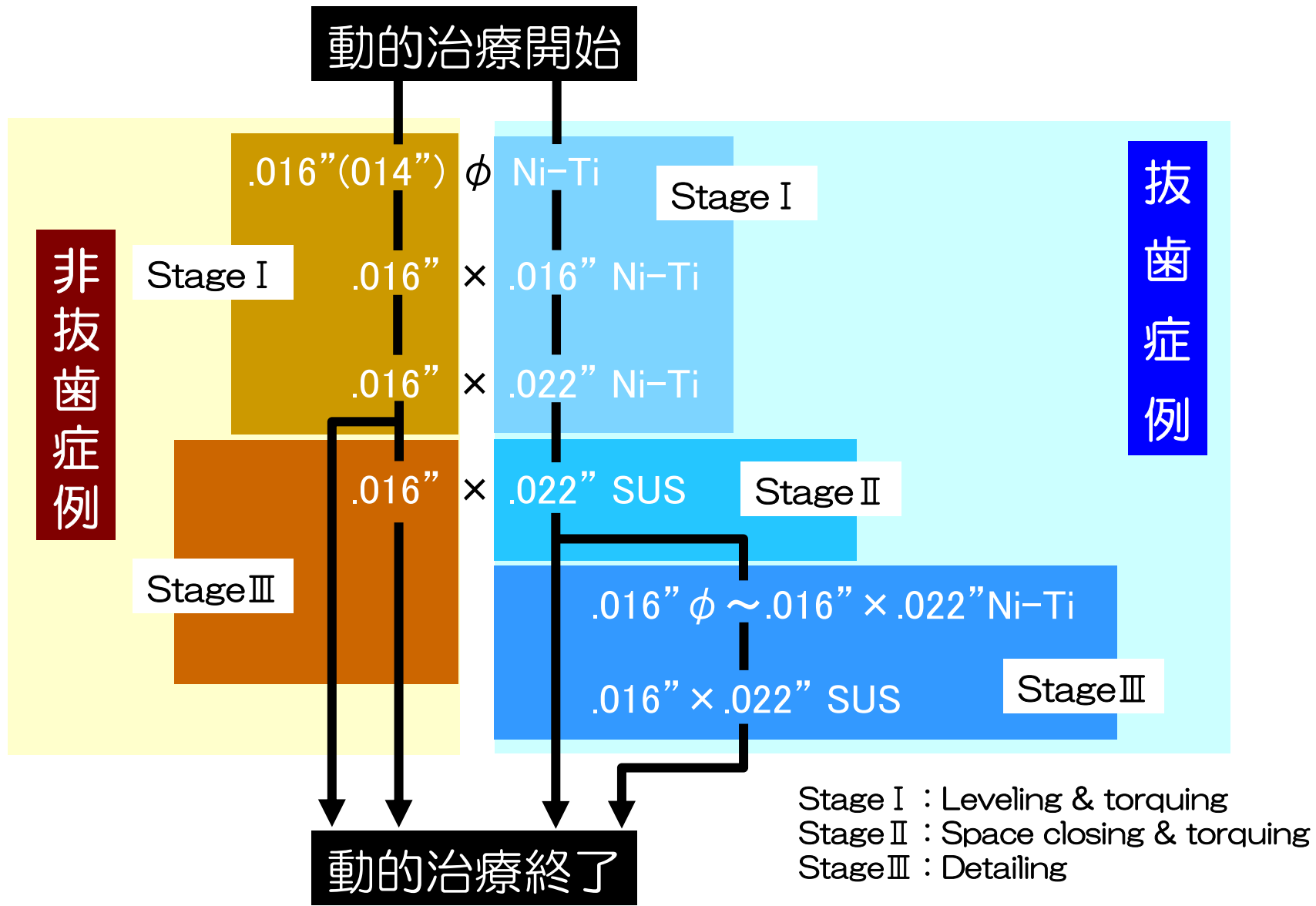


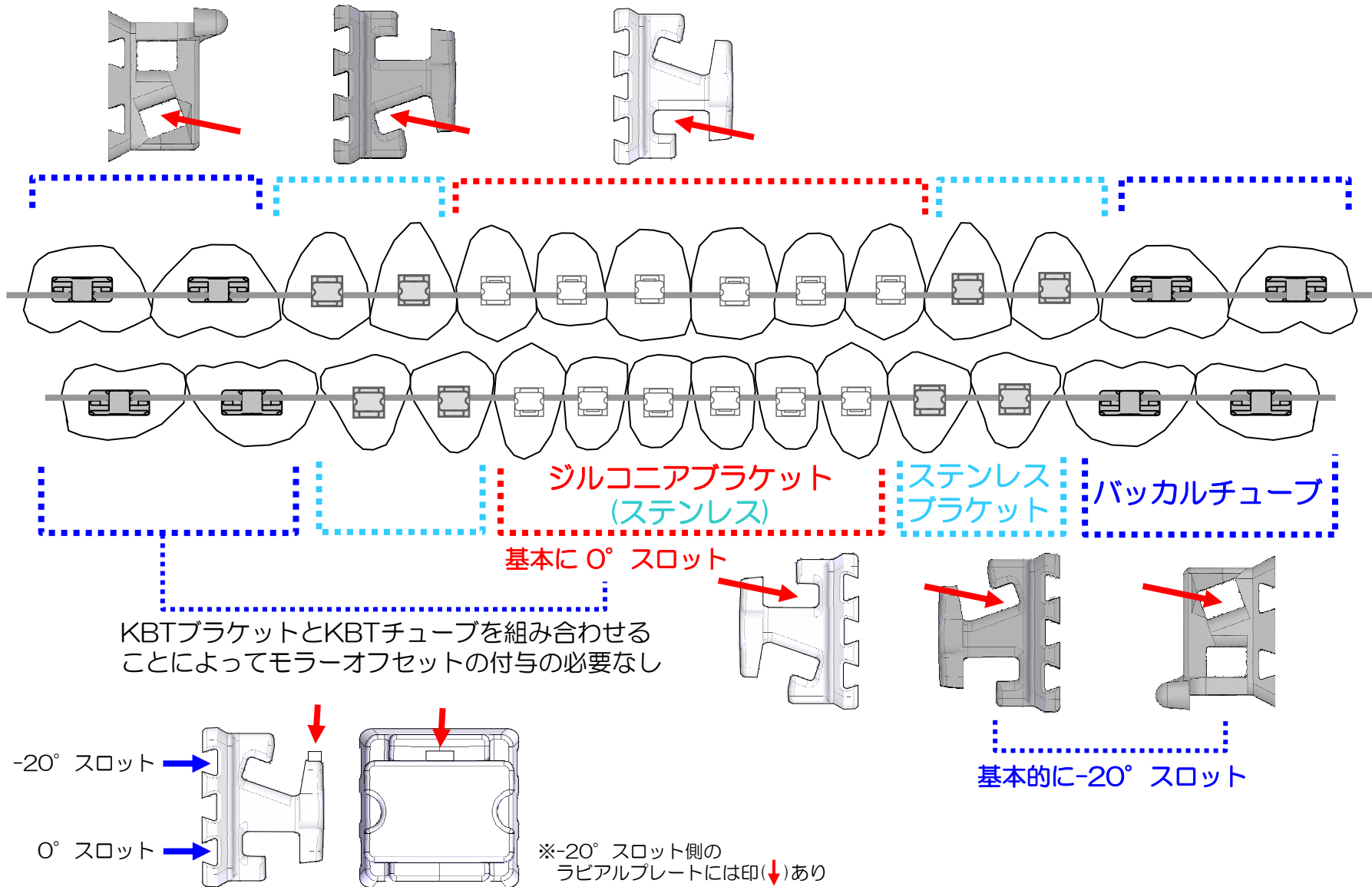
# KBTシステムの概要

# スタンダードなプロトコール

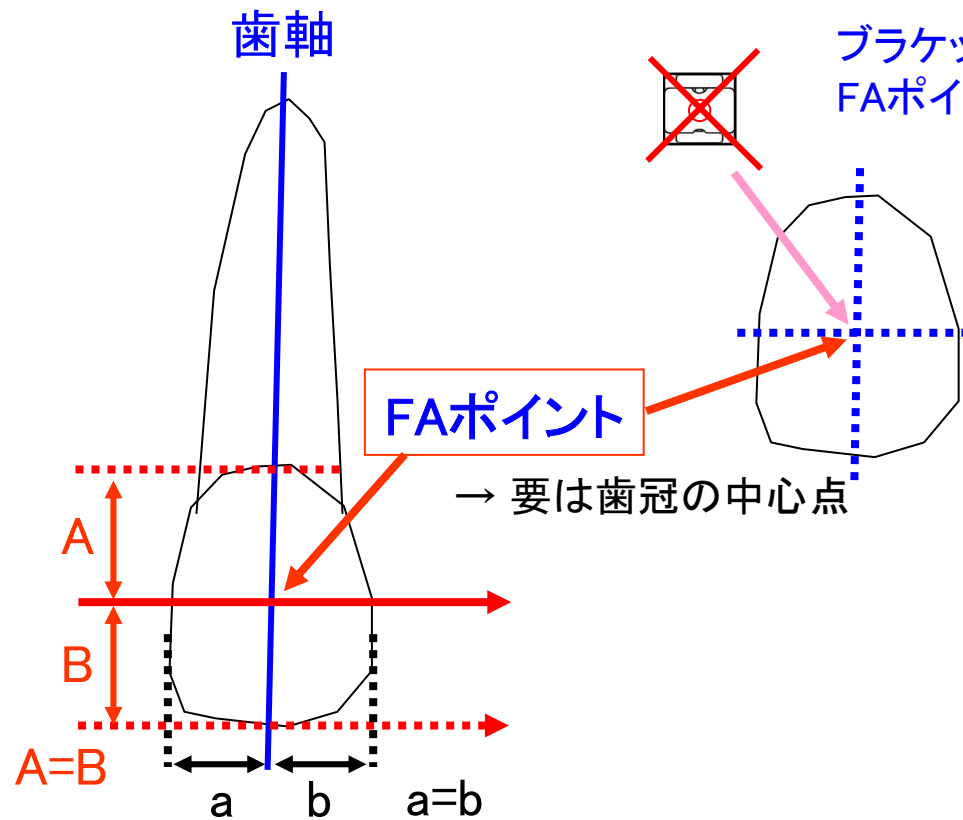
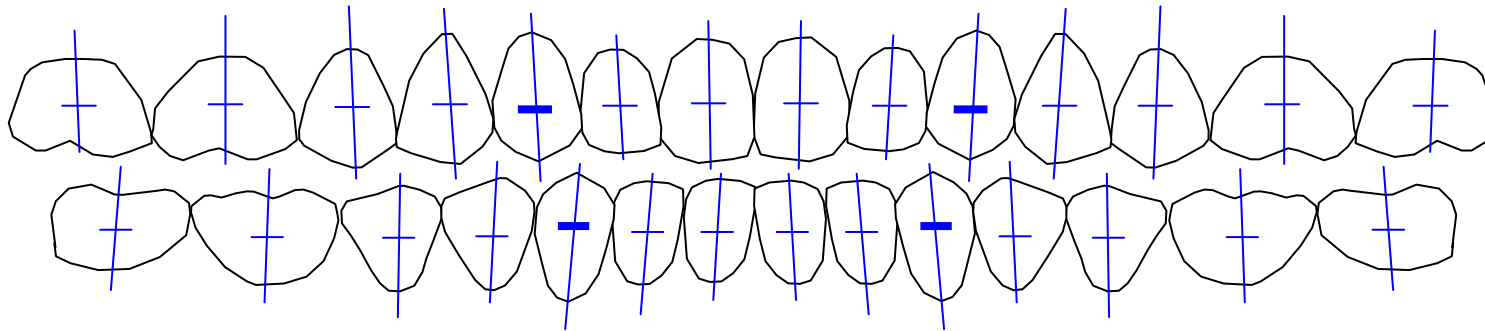


※過蓋咬合症例の場合、reverse curve of Speeのワイヤを使用

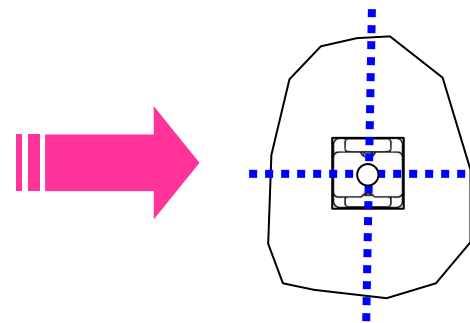
# KBTブラケット/チューブの装着部位と使用スロット



# KBTブラケット/チューブはFAポイントで接着する



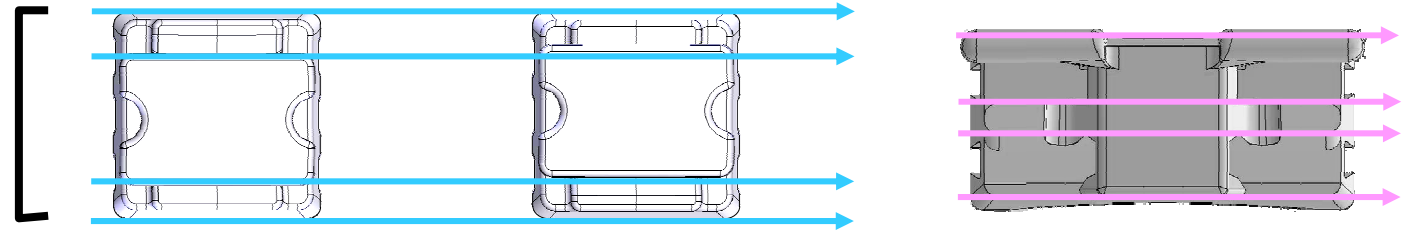
ブラケット/チューブの中心点と  
FAポイントを合わせて接着する



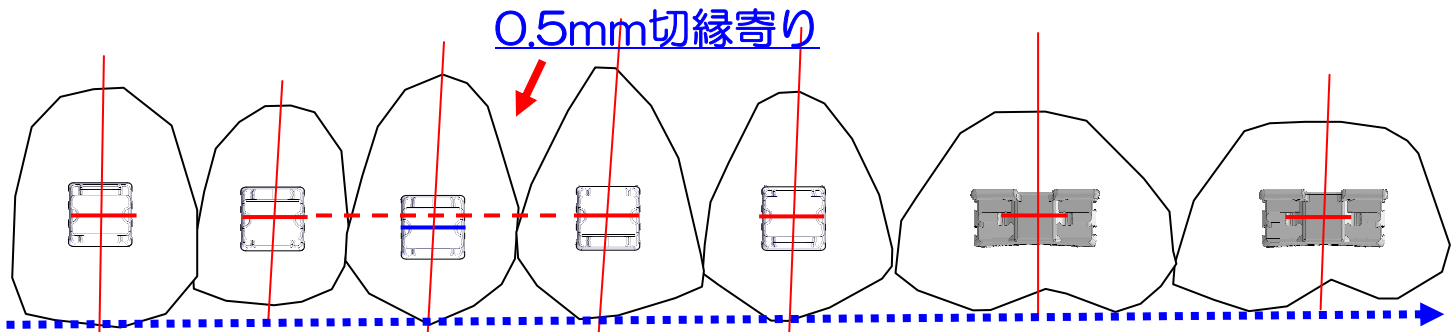
ただし、上下顎犬歯は  
FAポイントよりも0.5mm切縁寄りに接着

# ブラケット・チューブの咬合平面に対するポジショニング

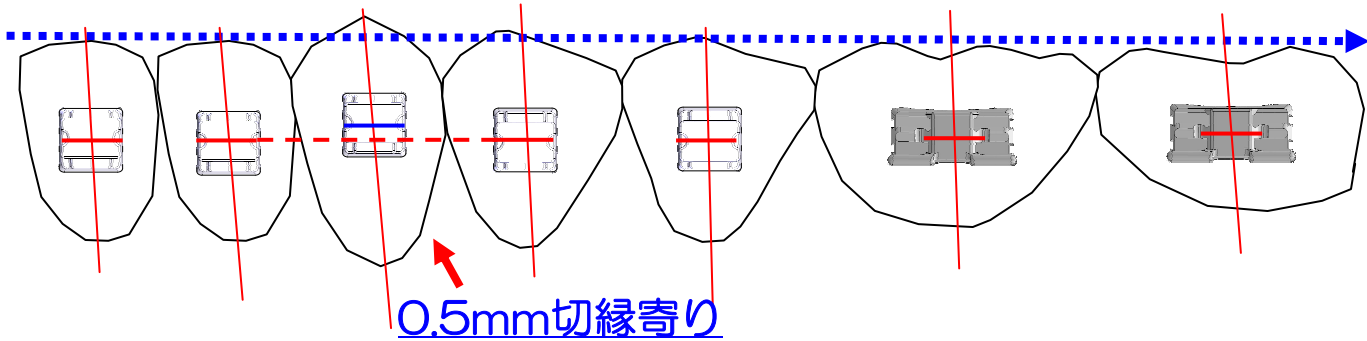
→/→ はワイヤ  
スロットと平行



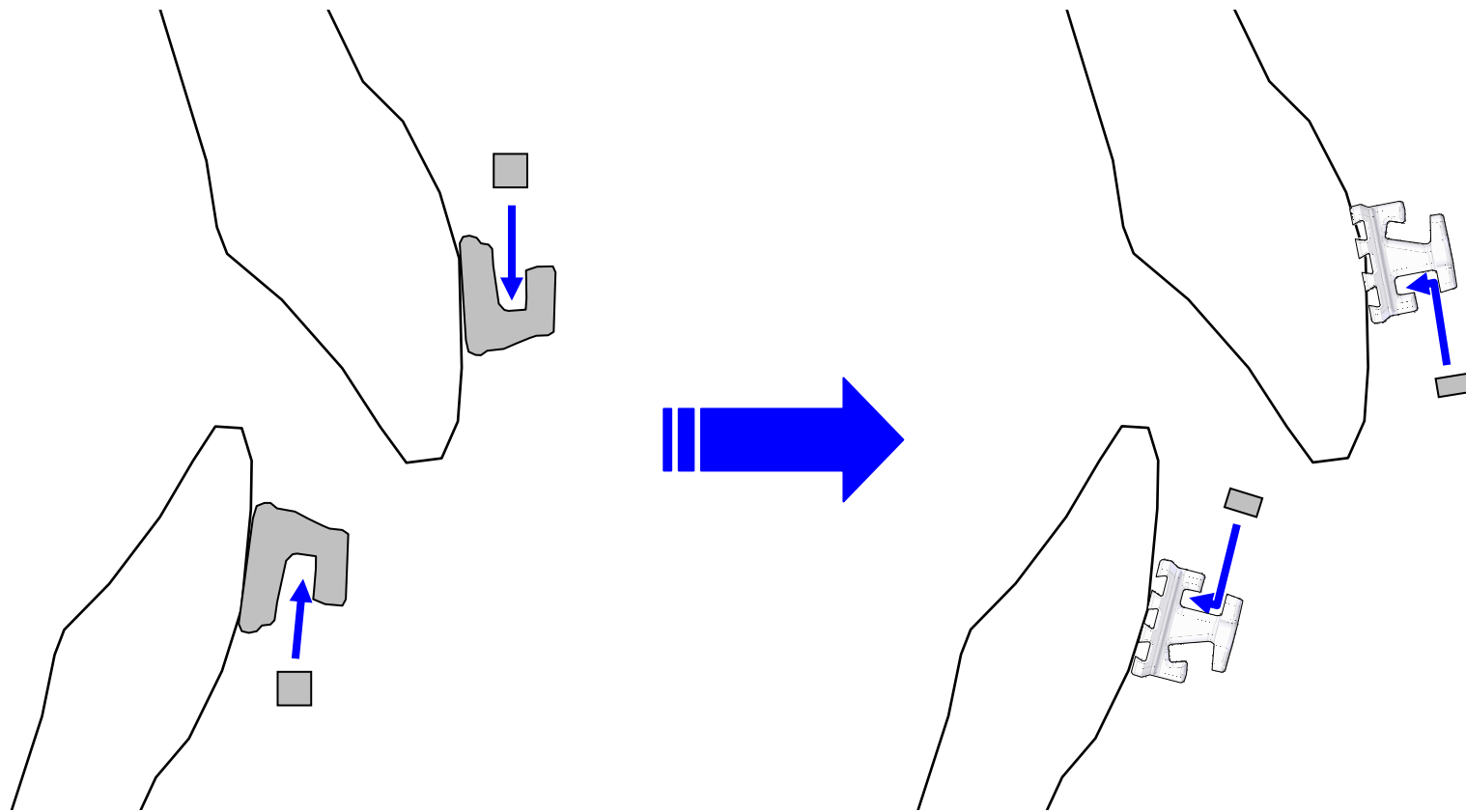
→/→ と →  
を平行に接着する



きちんと並んだとき(想定される治療終了時)の咬合平面



# ブラケットへのワイヤの挿入方向

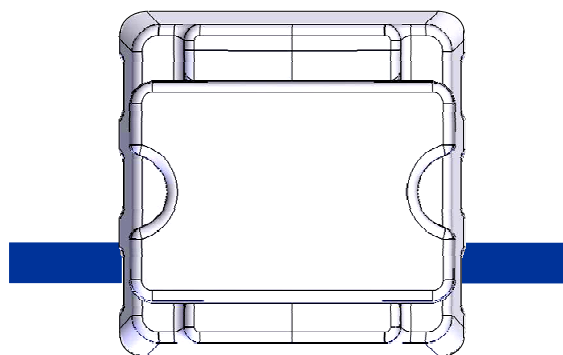


ベッグブラケットでは  
歯頸部から挿入

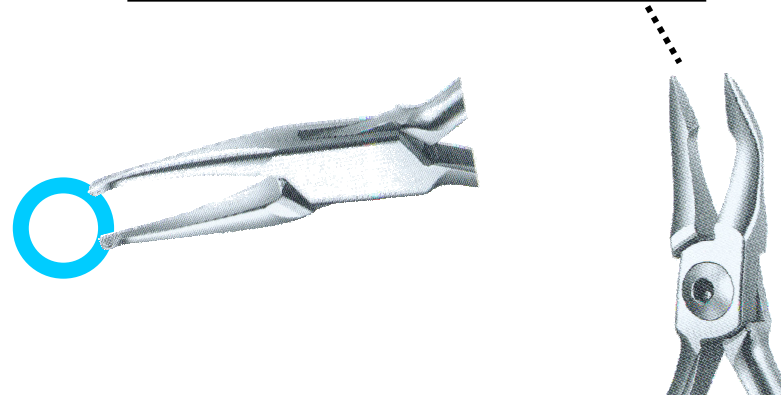
KBTブラケットでは  
切端方向から挿入  
(咬合平面方向から)

# エラスティックモジュールのかけ方

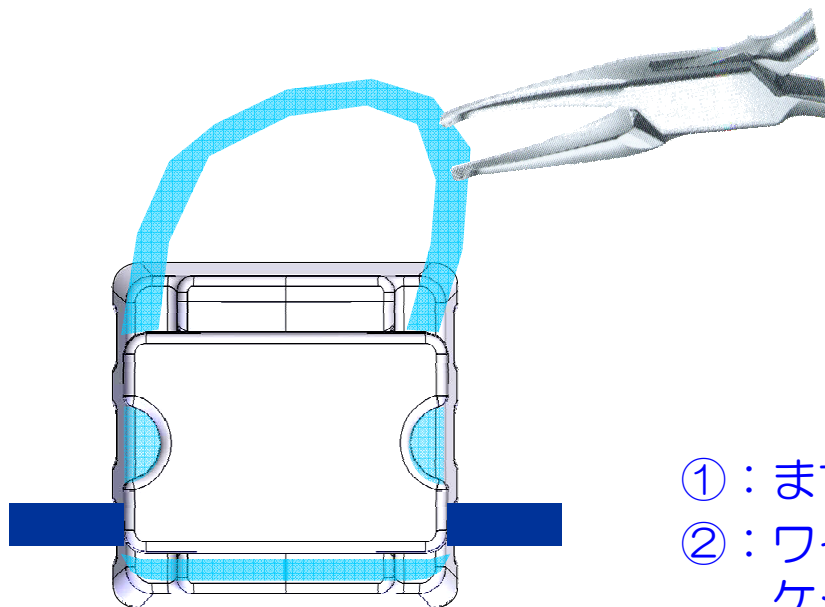
① ワイヤをブラケットに装着する



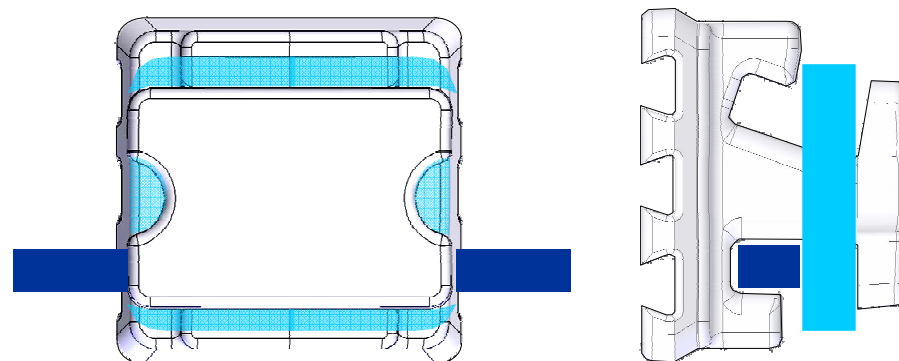
② モジュールをホウのプライヤーで把持  
(またはユーティリティプライヤー)



③ モジュールを引っ張りながら装着



④ 出来上がり

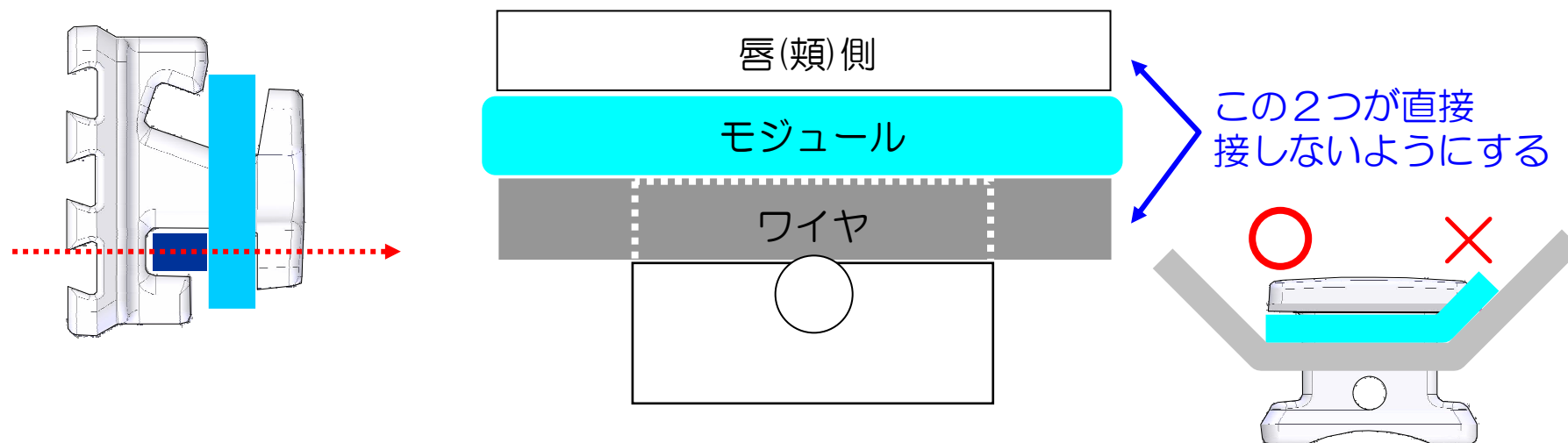


① : まず、どこか1箇所に引っ掛ける

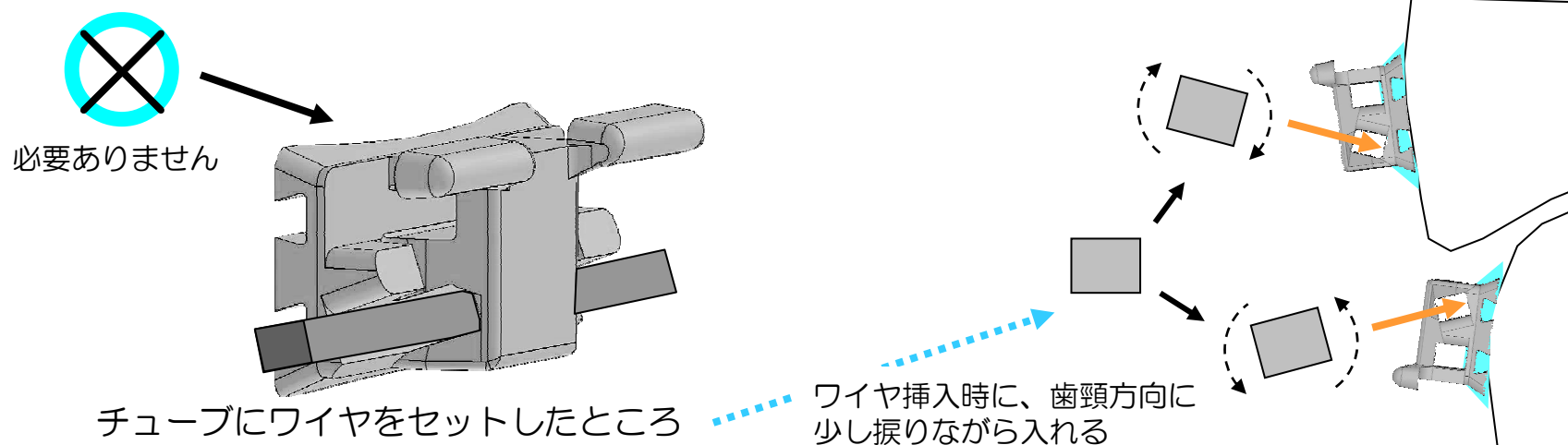
② : ワイヤとブラケットの間に入るように引っ張る  
ケースによってはワイヤを押しつけながら行う

# エラストメリックモジュールのかける際の注意点

- 必ずワイヤとブラケットの間にはモジュールが存在すること



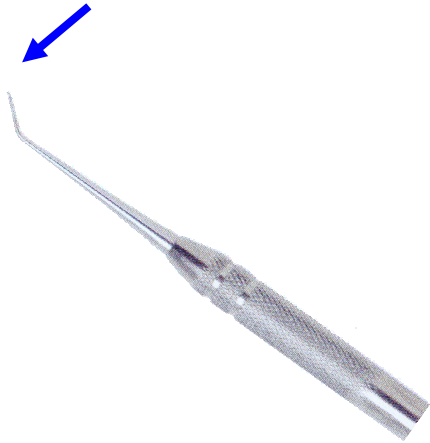
- ちなみにバツカルチューブにはモジュールは入れません



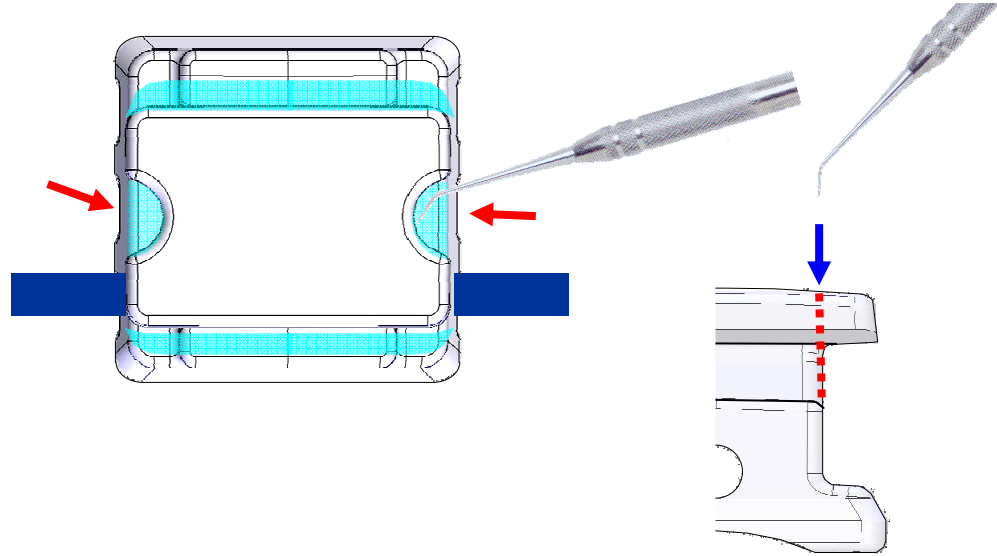


# エラストメリックモジュールの外し方

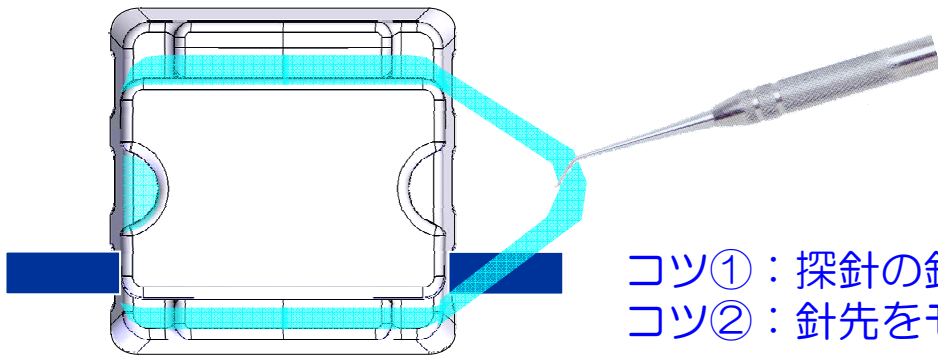
① 先の鈍っていない探針を用意



② ブラケットの前板部横の半円部分に挿入



③ モジュールが引っ掛かる



④ うまく引っ張って取る



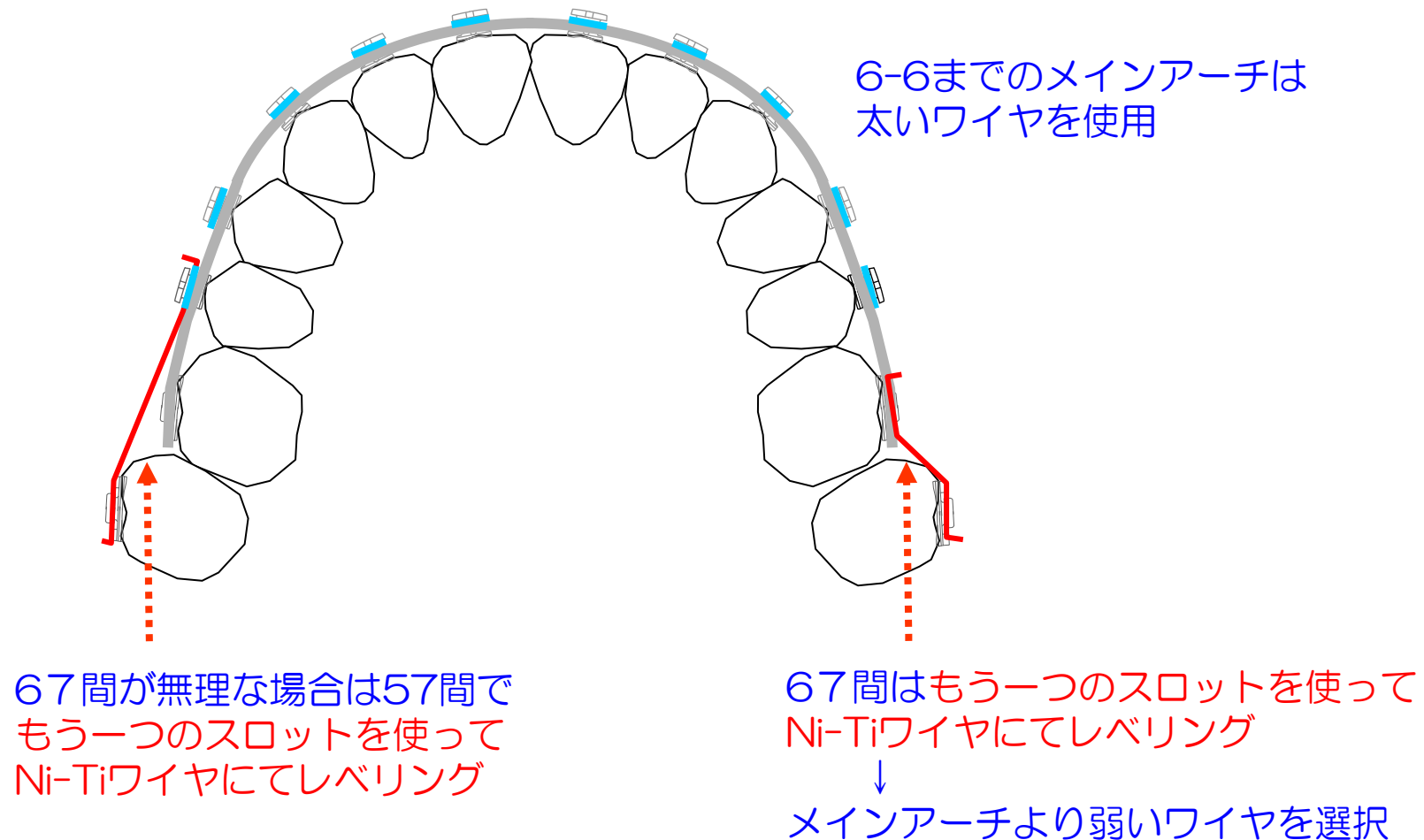
コツ①：探針の針先が鈍っていると効率が悪い

コツ②：針先をモジュールとブラケットの間に入れると楽

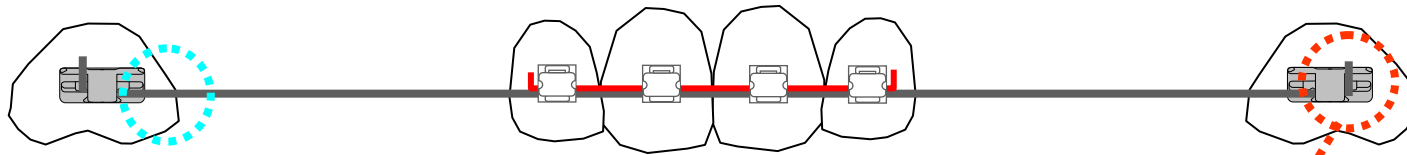
# KBTブラケット/チューブの応用例

## -治療途中で歯が萌出てきた場合-

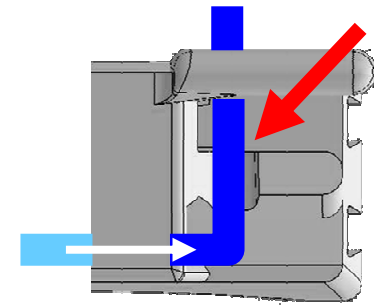
- 治療後半～終了近くで第二大臼歯が萌出てきた場合



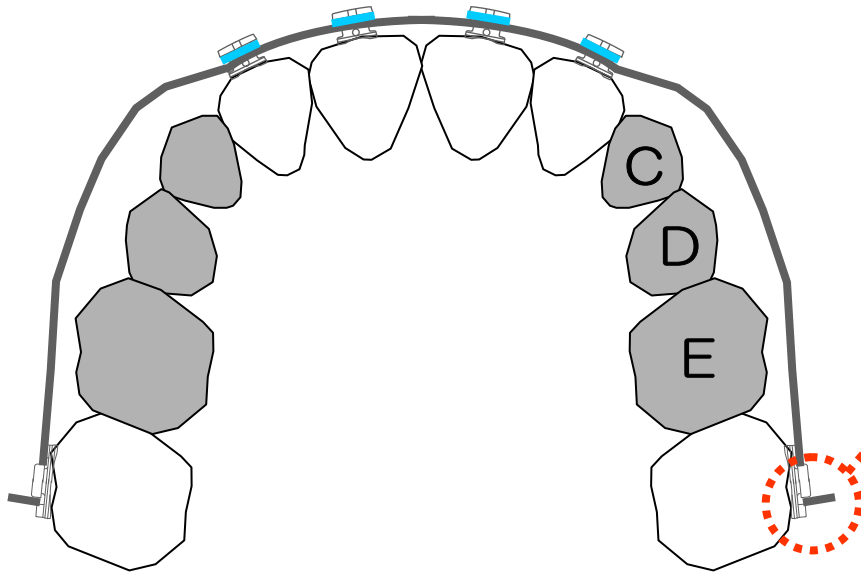
# KBTブラケット/チューブの応用例 - 2"×2"/2"×4"の場合 -



クリンパブルフックやΩループは不要



バックルチューブ遠心から出た  
ワイヤを歯頸方向に屈曲する  
ことによってワイヤがロックできる



使用ワイヤは.016" φNi-Tiワイヤ(→)  
→ クリンパブルフックやΩループは不要

KBTシステムに関する詳細につきましては  
雑誌・書籍もしくはセミナーをご参照してください